第9章

- 1 並列処理が可能になり、全体の実行速度が上がることがある利点がある一方、並列処理ができない場合は実行速度が遅くなる。
- 2 同じ
- 3 違う。前者はそれぞれに新しい変数が割り当てられるが、後者は変数が再利用される。
- 4 できない。
- 5 専用コピーを持つ。
- 6 初期化子呼び出し時に初期化され、セッション終了時に破棄される。
- 7 変数は値を保持したりできるが、プレースホルダーは型とその大きさのみを保持し、与えられた値を返す。
- 8 依存している場合は例外が生成され、依存していない場合は問題なく実行される。
- 9 オペレーションの出力値を渡すことはできる。
- 10 プレースホルダーを使って実行時に代入すればよい
- 11 リバースモード自動微分では 2 回、フォワードモード自動微分では 10 回、数式微分では 0 回。